



伊地知文庫  
文庫20  
210  
3





近世集第三

伊地知氏書冊



れ

大うら山内裏此事也

れの久奉此事有利

れがきりん河門に大君

れは海舟朽きるる舟なり  
大右舟と事

れやめこ若女れ事少女  
有利

れさ幼ん下女に又おさ賣女  
うり納女と事

れうの鳥かきめたり

れが井とれ大根あくら  
うり



ねりせぬ人 直習の人ちり

ねくまぬる おれ事ちり 又おくしる

かり又せこぬん かのもりち極まり

ねりひ草 たうかり事

わら唐り一統し竹

たうり又青と云こ思草但八

ねせぬ 麻もれとれ

ねもつよれ たうり人形

ねひひくさ まんたうこ

ねけし立 そこの子あぬこ

ねひひぬ ねひひのまゝ

ねららく 只老しらくい並字

思わへと ねひひ定ぬんこ

老れ ねひひとらへこ

ねひ流物 ね穂物とすひつる

ねかとり ゆるやうかり弁

大若すち たやうから新こ

おん年丸 ねせこ四年

大若海 虫教のすうこちり



ねがひの たへひかり大

ねがひの ねむりくちり

ねがひの うきうき

ねがひの 苗をとのたて行  
新ちり

ねがひの 思下し

ねがひの 物不危こぼく  
痛のしり

ねがひの たみき遊れなき  
かりぬき

ねがひの 美実とりのふむ人  
きうありのれい云

ねがひの 八寸右一す八  
ふ又ひらりときに大ふさ

ねがひの 女は記の白記  
男師教とりの

ねがひの 白双記菊

ねがひの たれをか記事

ねがひの ねがひ

ねがひの 大ニ揚れ神

ねがひの ねがひ

ねがひの 盤物のつり  
なり

ねがひの 法皇の山名ちり院

ねがひの 林果の曲

ねがひの いしりあき海



おいらとよ 毛むらさき

思ひれ家 火毛がわ

おいらとよ坊 おいらとよ坊

おいらとよ わあ〜

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ

おいらとよ おいらとよ



ね色をくくくく めんぢんのを

ねもれ 大塚子のくこのは膳

ねくくく 雄くくく

ねふゆ 草をくくゆりき

ねしひれさつあ 中れつさ

ねがかりち 冷人の姓は太神氏

あさ 衣蔵具

ねまう 雁席かり

あふくし あふくお事く又

ふくふき ふくふき

ねや ね上のかり

ね ねとねと

ね ねとねと

ね ねとねと

ね ねとねと

ね ねとねと

ね ねとねと

ね ねとねと

ね ねとねと

ね ねとねと



ねがまへ北海 西交のりし

ねま山 森隈園より

ねりひれたさう み新の火ちり  
か新居火威

火新 うひまの火も  
うも地まのしん三  
白まふ

ね海まかむ 落髪れ事  
出家すりま

ねがまへ 大まうこりふ新

ねがれひ ゆまにま宋れん

ねま たうま  
人丸の膝夜

ねりひれ 大まの夜に

ね海 か此うからん  
ふか記ふん

ねがまへ 人  
お軍とつ

ねがれ 小忌とまぬ人の末節  
まらと大忌の云卿と  
りお新

ねれ まふ  
すまひかま

ねま たいの月す  
又人よまふ  
ま海ちり

ね ま  
まかり

ね ま  
まこのも日  
事

ね ま  
まかり川

ね ま  
まかり



大なるひ 富直とていふ

大ゆー 大直といふなり

大かきけ かけくーいふ

大江とれ 舟又汝海の時藤館

大流る梅 曲笛いふ

大やし草 ゆつりふ

大かきも夜 又出仕の夜

大海とま 大御馬

大かきいふ 大床の名

大流る立 雑合れ事なり

大かひいふ 雨かかひいふとていふ

大ひいふ 老い歯皆落し地

大流るいふ 正しくいふとていふ

く

大いふ 素門か

大いふ 命の名の因柄とていふ

大いふ 帝言山よのり因

大いふ 男膝く出仕

大いふ 三月う

大いふ 甲んくうの一色



雲のくれ 人遊むれし

くく越えまじむのりくくく

きいし井計る地しあしあ物り  
かるとくあしあむくもの物くふ  
事くくくく

雲れえたて 雲くあのみれ

くくの初 山嶽冠系くくく

くくくち 山崎くくく

くくれ岩橋 坂尾くくく

明神宮 拾く久米地あし

くく海子 寺くけかき神し

紅のあし 女れくく雨の陽

くく流きて 田かき

くくねくくく 山崎

くくくくく 推量かり

くくくくく 菊田れ雲く借し

くくくくく 山崎

くくくくく 山崎

くくくくく 山崎

くくくくく 山崎

くくくくく 山崎



く後が紀 さうりが紀事

くもてよ思 きりく物とか

く 思乱

くれし 後織

善い 後織

六 名久

く 井

雲 雲の

く 井

く 井

く 井

卓火煙 卓火の煙

く 井

思 思

く 井

く 井

く 井

く 井

く 井

く 井

く 井

く 井



くはくは 露屈しけり  
又吉したし

くはくは色うも 裏白衣落紅  
のまらり

くはくはまも 莫水もまの

くはくはきり 細行り

くはくはさきり 奇きり  
さきり

くはくはきり 果さきり  
さきり

くはくはたま 菜玉湯平よ命と  
延統りとは

くはくはら 天竺百母國かり

くはくは 後悔し

くはくは 物りかり

位みり 位り

くはくはひ 後字に十紀物たの  
んとるまはくはひ  
よせんとのまはくはひ

思あはせ 純美之服者急し

思き木下 服者の酒友に

くはくは 仁徳天皇の  
他初に付本

竹本とそ木よとのまはくはひ

思木の鳥居 くらりん  
り本にあれ

うはのむらと云  
雲はくは 官の事し

くはくは 純神の事し  
山玉  
二のまかり



くま馬 火祭の参り

くひ 命のやらし  
八千夜なり

くれ竹 兵國より来る竹  
ぬい兵竹と云

くら洗奇 日記口号  
日本記と云

思ふ水車 服者の車  
坂車と云

くあくあくと くらと云

口さびく さげり

くあま舟 津國和田のみ  
きととく

くさくさく 世す人  
迷悟又弟の娘  
日あ

雲れ炭 火の雲  
まの雲

草のたぐ 香か  
かむ時香千般の草と云

くあきて他屋 まり

くらめ 臭かり  
臭

草か紙のたん 把の尾  
よあり

細く日本式 船火  
牛ふ耐よ白火しる海と云

くあく けり  
一時竹原よ

成る様か利

くあて 當の代  
ひと



よ子細るるの月こい多た  
くらら木音 あの下  
くららこ なごりや

くらら山 去依の園よ

くらら 律園と  
罕得と云

くらら 元日よ屠蘇  
白散と童女

くらら 掌初さきて天白皇や  
食かり葉子と云し未嫁女と  
とそと酒よ入てのま

くらら 麻布か

草れ又月雨 み

草れ 袖

草れ な

草れ 節

素のえび ふ

くらら ゆ

園の柱 聖の

くらら 火

くらら かり



く御き海 世界れり

く海くさ いふよう

くさ丸名 催る糸の類

くさ野 冬に野

くさか丸 音れ名

くれとれ神 芦系中津國の使の神

くさ人形 名やそも他

くさや 如りり入

くれ地 本せし

くたち 本居く

草れも 大行と云物

くもと 麦の名

くれ乃雲 葉か

くさふ 同

くされ 草

くさみ 神切

くさ やこの

くさ ぬと

起 天







屋よまきくし波あつくつ流

やまのりん 武王の心

山山 世のあつれり人の道伏  
色目あ

やまのりん 下あつり

屋屋 通へ日本記より  
進出りしに屋

らふたつた源氏もあつるを  
終ふこまやうひやうた云

山山 山屋のりん  
一きん

山山 昔は山も  
んくぬ山歌

屋屋 屋よまきく  
いふなり

屋屋 やわりていふ  
あつり

やまのりん やあせまなる  
かり

屋屋 やまのりん  
やまのりん

やまのりん 北本宿本よた  
ゆ

屋屋 良見

山山 山口のりん  
山口と伊勢造

交社山のおくすのりん  
た梅人か

屋屋 屋よまきく

やまのりん 屋よまきく  
屋よまきく

屋屋 屋よまきく  
屋よまきく



山ありはれ神あめをめのま

山うすりて 衣傷の羽

大和がそくし 名行

山くがくす 日の暮

やまなまて 山をい

やま 山をい

山まゆ 山をい

山く 山をい

やまめ草 山をい

やま 山をい

山鳥尾の流 山をい

山 山をい

大和山 山をい

山 山をい

山田れ 山をい

山下 山をい

山 山をい

山 山をい

山 山をい

山鳥れ 山をい

山 山をい



なまやまの夜 日本の事天宗  
徳頼公が

やまの山 寺文八指  
の又竹

山はうひ 山あの間

やまいんこ た柳の葉

やまうし 海の名

山とんあ うりい

なまの山 祇園公の夜

やまの山 夫のしとく早く  
りり

柳乃夜 柳より付る夜

なまの山 天河のり  
天照大神位

山はもひ い

なまの山 い

山まら い

なまの山 初瀬川の事  
立田川上落念

山は 皇のすり  
ま二句

山や死す 海をひいて  
くれり

やまの山 い

やまの山 い

やまの山 まふ八百日  
り頃唐

なまの山 たの山八極  
の山



尾内井

やまわの山麓とす

尾内くまにかく

この山名に  
て啼し

やまの尾の尾

尾のまじりか  
かり

山とけり奇

古事し

山じまのよ

山のくま  
はれの山名

尾まの

山人本遠去

やまの尾

山の終

やまの尾

わくくの明神  
矢と村立よ向

柳乃の尾

柳水一  
と橋造一

山れら

れ事

尾まの

やうの

山れくま

山の根と

尾まの

やまの

やまの

この

八重山

ふか

やまの

本の名

やまの

武

尾まの

我

尾れ



屋うらり とうららり

やけうま 秋の月

屋まやまひ 又の年

御まき ころり

やそく ぬれかき

やまき ぬれかき

屋まき 女の名

山れたるり あり

やまき 巻ひた

屋まき 出雲

屋らり 神の

やらの 神 家神

屋と 万れ 神 法神

屋くろり 月 宰相

やれたるり 家の

御まき 日中

八平て おと 柏

屋まき 八方の

まき

まき 八平







主神 うつくしき神

まやかり 鴨の事其も

まればろ 白鷺

まのくさよ姫 唐へゆ

松浦出でてひれ老人

まのくさく まさき

ゆてろ まてへ蛤とぬ具

まてろ 是し二まてり

またゆく 目もあてられお

またてふ まてとらふ

まらして 葉のり

まてく まてく

波そとの系 尾花と云志麻

まてく まてく

枕の林 まてく

まてく 葉

まてく 葉

まてく 葉

まてく 葉

まてく 葉

まてく 葉



まげきるすまかろぬの曲

まろくま枕をこまろく  
葉子もよみ

海うた眼のうらな年これえ  
鼻を底へてまよす  
たろくた云

まほり神のこひをよりの  
家条こ

まげり世中れまろり  
しはなと云

海ゆ縁う記人よあひう海  
時眉うゆまこ

まゆりゆりゆりたを

まへのあ世中れとこまひ  
かり

ます男の事こ

海すまれば  
すまこ  
真まは後と云  
葉すみ

まろさかり

海があ最のやうかり事  
神忍かりゆり

海とまれば家かり

松うえのま向  
おま混然  
紅葉をりて

たはげまどり  
念えろみろ

まけちろる  
かり真土方

まろこら  
地かり  
路は地とま砂

まろまよ  
あまこにままふ  
かり

まろまろ  
かり

まろまろ  
かり



まぐか紀紀 高きしき  
は虫えいのし 新とすうとま  
ひつめいさ ひつめいさ

まもろうや 法もや

まうひく 吹くろよこま令

まがかり人 くろくろ

まがかり くろくろ

まがかりぬ くろくろ

まがかり くろくろ

まがかり くろくろ

まがかり くろくろ

まがかり くろくろ

まがかり くろくろ

まがかり くろくろ

まがかり くろくろ

まがかり くろくろ

まがかり くろくろ

まがかり くろくろ

まがかり くろくろ

まがかり くろくろ

まがかり くろくろ

まがかり くろくろ



枕流く 小松とて板の上より有  
そのなり

まじりく 大和より  
是白橋  
原とまかり

まじら山 駿河赤坂の道

まやれ たの家  
をり

まゝ たそてまゝ

まゝ 後世の道

まゆ 月眉

枕と 枕とす

波 茶に煎割うら

ま ま

ま ま

ま ま

松 松

ま ま

ま ま

ま ま

ま ま

ま ま

ま ま



まに後まふくくと跡一  
きろこまきくに月あ

後うなしく 後一とたうき  
さなり

まの如 清君かき

まは人の交 歌のるん

まれ われこ鬼よもあれ人  
まもわれかきとふ

後まに あつちちり

まれう日 殿一取目し

まそゆ まに結りそき  
あ帯し

まふ少 你たふよと  
あき

まは えいらいちり

まは殿 かきまきと云神あ  
まに

まは まに結りそき  
あ帯し

まは まに結りそき  
あ帯し

まは まに結りそき  
あ帯し

まは まに結りそき  
あ帯し

まは まに結りそき  
あ帯し

まは まに結りそき  
あ帯し

まは まに結りそき  
あ帯し

まは まに結りそき  
あ帯し



月内里人 幼月庄司等と

後き痛 兼もしもつて

ふとよ

まのめ 松井

け

けー びん

あー びん

けないああん さいしん

あー びん

けさ びん

あー びん

くらて さいしん

けー びん

あや びん

あー びん

けさ びん

あー びん

あー びん

けさ びん

あー びん

二文

二十六



クふとくねてし膳の字とく  
中もかきいさ

あーまじとね 氣喘とね

くふれがそ布 校部れね  
のれとま

けらさませ たれとま

あーんひ人のくーか

あちがく ちくこけの垂  
字

くふれまゆ 只まるのす  
るり

くーそく 息と云

あーらかくんか

くふりれみの もれ  
たふ物表とく

けいめい いとかわき

くーや ねそり  
まかり

あーん クんの  
のてつ

文そかり

あーま けり  
中ま

くいせ その  
まの

まらと

くふれ けと  
まかり

けた あ  
まの  
具



けははるいひぬのお物と

あそん家のいひと

けこ鳥が海くも

歎言よか名有り仙菜とかな

あつけりも付のこま

あはま系けの車く

けふもる殿まけ物よ

ふ

針衣の赤穂のうと

うづけ業と水よ入真と

うじりちやんん

うづけま欲

うねいれ又せ

うの道後家ひん

うら捨

ゆりさけわ又り

うら右又月

うら七又月

うら三



かりとへて 又折とへて  
ふなり

うのくろ 太くやうりか  
もふたのくろ

うら夜 友の夜とて織  
り夜とて服者乃

多夜と云まきく  
よその夜

船とよみ 舟とよみ  
舟とよみひの船の

二わひれ帯 二藍帯  
装のこま

多とよまきく 二わひれ  
たまふなり

ふとの 多がと丸網  
文殿

うらとらぬ 秋草之蘭

うきいれ くのじり

うさふ ち海がく  
まき

うらふれ 友の夜  
のよ

うてれす 十とひ  
り

うまは 被帝且し  
母御へ内の事

の毎をせむく 口方  
をへ寝のく

うとらぬ たりか

うまき ちこのや  
かり

うまき 友傷く  
まき

かむしとひ 友く古  
も急



うさあまをり ふこの中よ  
うさこりりら

うさあまをり いよかり  
うさあまをり 舟人舟長

うさあまをり 大内の窓の邊

うさあまをり 吹上上吹  
うさあまをり 吹上上吹

うさあまをり 天見船  
うさあまをり 玉命

うさあまをり たぐれら文

うさあまをり 試毛

うさあまをり 二毛

うさあまをり 海生

うさあまをり 舟の月

うさあまをり 舟の月

うさあまをり 舟の月

うさあまをり 舟の月

うさあまをり 舟の月

うさあまをり 舟の月

うさあまをり 舟の月

うさあまをり 舟の月

うさあまをり 舟の月



二新島 とくとく島

少それ海 硯かり

うらまひ はくはまこ

うさぎ島 鷹こ二季も

うのう草 極二日草

うら系 うら菜

船 舟泊舟もろ

少世屋 世とよ小家

少くし 仙隠常なる

うさぎ草 蘇二季草

うさぎ草 補果のうさぎ

久とへ 明王の代

うら唐 新地付の小家

うら唐 記はがみ

うれ うさぎ

こ

ありりえ うらに

あや うらに

あや うらに



あたくふ うくにけり

こやた うたふ

あふれ道 よこたぬ

こもり 島

あふれ ゆき 四年のま

このしやわ月 日月

あわとして 鷹の本

あふれ むの

こもり 鳥

あふれ なみ

あふれ おがき

あふれ あふれ

あふれ あふれ

あふれ あふれ

あふれ あふれ

あふれ あふれ

あふれ あふれ

あふれ あふれ

あふれ あふれ

あふれ あふれ



の吉ふとーりし路ちれと水征と  
りき

こはれふひ方きしこ

約と目とさめ守 草もいふま

あしちま あつて宛敷

あそとこれ交 かゝるそりち交

こあてりーい 人のひたに船

宗長の流しと母宛と又この

て柏の宛葉の名よととをいふ

宛葉は遊よよと終

あやたま 銀とがウケ

あといひく 川の字とあす

琴

あは海流 つらたうつた

あとかしひ 草事のこと

あとかし草 あつた草の二名

あつた草 あつた草のこと

あつた草 あつた草のこと

あつた草 あつた草のこと

あつた草 あつた草のこと

あつた草 あつた草のこと

あつた草 あつた草のこと

あつた草 あつた草のこと

あつた草 あつた草のこと



あしと居る あまをくは

あしと居る 一疋の緒へまゝにぬ

こしと居る びりーの緒へ

あしと居る あつらひるるる古

あしと居る 金ひて梅の枝と化

あしと居る 冠しと居るこゝろあ

あしと居る 毛組の糸日銃等とあつてふり

あしと居る のひと居ると居る

あしと居る 浪とて菊撫を

あしと居る 他うりうりよとす

あしと居る 夜と居る

あしと居る 右向あ

は殿と居る は殿前へ催る糸

こは の糸

あしと居る あしと居る

あしと居る 思と居る

あしと居る あしと居る

あしと居る あしと居る

あしと居る あしと居る

あしと居る あしと居る



しやせひひ 琴 担ひさる

あくさ記 もろこ 鯨の須子  
てまらこ

こあしうま 大坂なりまこ

ふかこ 海 する へわらうこ

ふくせ 海 さひまき 海

あやのよる 祿 酒子のうらま  
なり

ふとまり 記 ふまゆつ なる  
祈し

はせうれ 世 二世の事とて

ふちくへ あ 海 へ

こてのせふ 皇子の海生ふ

これ 祿 なる こい 祿 なる  
ふかま なる

ふわひれ 風 か國の風の名  
又人れ 妹とて

替あわや 帯 祈し

こひち 浪の中れ 水 へ

あひく こひの事

こい こいり 江と云は  
と云字 浪遠

あり あつ なる かな  
やとよ

あ 海 の 木 はれ かな 祈し

ふの 指 ささ かな 祈し



うゝ海のくばりて

ふみ海に波いさむる

あゝ海の旁まうふ

ふれ積さうれ

あゝ海の池やあつて

ふれ水浅く

あゝ海の月清く

ふの記あゝ海く

ふれ蒼うり

あゝ海の雨これ

あゝ海に麻

朝の記

こゝろふ小細

あゝ海に

あゝ海に

ふみ海に

あゝ海に

あゝ海に

あゝ海に

天守御の御ま



花の志帆上 丸島上取上まじ

おく海む 洗うお巾一筋上  
付組多し

ししきと 絵物の名も此あり  
れつととき

衣の見り 布衣すそもこれ  
し海松のししき

かろしうよあやうの夜のきつと  
あり

おふれあぐ 琴の調子

こもとま 女の名ここのまより

あこのえ 都れ事

こ海びく 八月十五日  
こま川日あ

ありす ありせぬこま

おたつる 十月穀物  
きてひより

おとれ下 けき帯の液  
水

こそ 九月の名  
本深月

ふの定 ひあきま事

あこのえ草 菊の袖の下

お海も 夜とく  
ておれ

おけ 答返と  
き

こ 同白あし  
り

こ あき  
ま

こ あき  
ま

こ あき  
ま



この美代中 近は湖の宮

あやしいこの文 八幡の妹

瓶後園

あやま姫 七ツ井事

ふたさげ ふかか紀

こまろ 本松かり

夜れなま 法どりとびる人の事

あけと あまのむすむすの文

あま あまのむすむす

あま あまのむすむす

氷れくま 氷原より

九川の世 真途かり

こま 住吉のこま

こま 住吉のこま

あらか あらか

あ 水原のあ

こ 実茂川の

天 天行とも

九 九の枝唐

あ あ



あすの秋 九月の夕名に  
首に社名なるものも

こころゆく 入てうらまはり  
志不と成し、まの旁のこころ

曇とかり又角節のやつからめ  
ともあり

あか紀述じ 沢田平たは  
とあり

あさひ 成り造酒

こころれ 葉ゆり葉

あらく 初て来と清れ  
女

あらくて うれしく

こころの草 糸

あせそま 省町とろも

こころ 氷とり冬

あつり 葉にゆり

あふの家 うれしく

あかしく うれしく

あか葉の文 男のくさ女柳  
多に奇と去

あか水より うれしく

あか葉を うれしく

あかり月 十日目の月



ふとくむ

まじりたりはく

紅花草

せんぢけりのみ

木葉丸

泊瀬

翠の草

花

腸の志

あまの帯

おとろかる

こころ

こめれ

穂本末こめれこれと

あまけり

紐分

こめや

かみか調こめや

ふり志

けんたくり

ふれなけ

心長かり

こころ

さあしとらこ木

ふとく

あまの

あまの

帯とくせ丸霞の

こころ

あまの

あまの

約の事し

日事

こころ

あまのやれだると

あまの

かきこゝる水

あまの

水雨の腸

丸霞の霞

油濁



こしきまうく 林系の探ゆこ

こいづの山 谷のあがりきこ  
たさき

あまのひらきしき

こもきき 山田の産の箱  
かたり

あまの 木下付る虫の巻

これこえ 鯉の子かり

ふさびが 刀かり

こしゆのくま 天の巻皇子  
の巻れはま

こまぬきて 袖へてく  
びくろく

あまかげいと 衣かり

こゆきま 啼こり人  
かきかり

こむしれ 森 美法の名  
かり

あまの志し 腋と  
下橋と

こい

えやかり えんかり

えんひあま うえの子こ

校と 志理の校こ

えかきぬ えあまぬし  
あま

えひろく たき  
あま



えんす人寺とくま

えんけう たさそのつと名

えんせめ むすねのわさき

えんけう たさそのつと名

えんの法人 えんのり者

えんけう 笑うらな

えんせもん たさむ方が記

えんせいもん えんなるすもえ

えんせう 昔不玄

えんせう 登んちり

えんせう せんた

えんせう えんせう

えんせう 偏浮の名

えんせう 又位

えんせう 多英源地

えんせう ひくく

えんせう 明佳表女

えんせう 夜の名

えんせう えり地

えんせう たさそのつと名

えんせう 野と云國の奇曲



て

てふ いふ事

てあ あさし目出夜事  
とよ

てらる 牛のふゆ  
糸車

てと あそび  
よ

ての いふ事

てと あそび  
よ

ては あそび  
よ

てん あそび  
よ

ては あそび  
よ

てと あそび  
よ

てか あそび  
よ

てと あそび  
よ

てと あそび  
よ

てと あそび  
よ

てと あそび  
よ

てと あそび  
よ

てと あそび  
よ

てと あそび  
よ

わ

近

中



あまや ちやとくま

あまや せのちからんは

あまや せりしては

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま

あまや せりふま



あへも たふとふあへも

あへも 愛へとも

あへも 祢 ありとも

あへも 祢のぞき 長のわさの

あへも 祢 夫の傍に

あへも 風 彼は吹海風

あへも 祢 男女の中さ

あへも 祢 得とも男

あへも 海 海の人教とふ

あへも 草 天人

あへも 祢 吹とも

あへも 人 天人

あへも 祢 ありとも

あへも 祢 ありとも

あへも 祢 ありとも

あへも 祢 ありとも

あへも 祢 ありとも

あへも 祢 ありとも

あへも 祢 ありとも



わたりま

ふれまのふ

あけりま

具足の上へ結成  
又小書のもの

あや

あやのふりま  
あやのふりま  
あやのふりま  
あやのふりま

あやふく

あやふく  
あやふく

あやひ

あやひ  
あやひ

あやふ

あやふ  
あやふ

あやふ

あやふ  
あやふ

あやふ

あやふ  
あやふ

あやふ

あやふ  
あやふ

あやふ

あやふ  
あやふ

あやふ

あやふ  
あやふ

あやふ

あやふ  
あやふ

あやふ

あやふ  
あやふ

あやふ

あやふ  
あやふ

あやふ

あやふ  
あやふ

あやふ

あやふ  
あやふ

あやふ

あやふ  
あやふ

あやふ

あやふ  
あやふ

あやふ

あやふ  
あやふ



あふのれ給へむと云りけり

あふよきてしを成幣し

あふのれ給へ天祚七代

あふのれ給へ天祚天祚

あふのれ給へ天祚

あふのれ給へ思然る神

あふのれ給へ中もかたごと

あふのれ給へ三月十日の  
夜書

あふのれ給へ三月七日の夜書  
白うとす

あふのれ給へ板初かたごと

あふのれ給へ地持

あふのれ給へ

あふのれ給へ

あふのれ給へ

あふのれ給へ

あふのれ給へ

あふのれ給へ

あふのれ給へ

あふのれ給へ

あふのれ給へ



わづらひりてわづらひりて

わづらひりて水鳥が

わづらひりて只鳴るの

わづらひりて只鳴るの

わづらひりて風よぬれ

わづらひりて真珠の

わづらひりて

わづらひりて明方

わづらひりて西うんと

わづらひりて

わづらひりて

わづらひりて

わづらひりて

わづらひりて

わづらひりて

わづらひりて

わづらひりて

わづらひりて

わづらひりて

わづらひりて



わろろろ お入分おまじらふ  
われいふおし

春のこころ まにまに

わてどろろ うけくーさ  
祈るり

わろろれ浦 わすの浦

おまに ま丹もる  
りお惚月く又の

おれは法書く黄く

わすれそ 髪のうろそき

わー 車 お物のお  
奥方けりお

わふ おのふ わさきん

ありわけ 十月一日 後の  
月と云

わろ い ぬ 竹ま  
く

わろ い ぬ 竹ま  
く

わせ お か う り 損 す ら り

わ お か う り 損 す ら り

わ お か う り 損 す ら り

わ お か う り 損 す ら り

わ お か う り 損 す ら り

わ お か う り 損 す ら り

わ お か う り 損 す ら り

わ お か う り 損 す ら り

二五



わよふに人殺しにぞもて  
そのこ

わつらむめし布しききり  
わよふに

わよふに 屋の夜に

わよふに 大なるものぞもて

わよふに 声ひこゑもよふに

わよふに わよふに

わよふに 茶焼爰納

わよふに 世 上古の事

わよふに のよふに

わよふに こと

わよふに こと

わよふに 馬

わよふに こと

わよふに こと

わよふに こと

わよふに こと

わよふに こと

わよふに こと

わよふに こと

わよふに こと



あををいふ山 小野に在る山  
北名而夜山の  
事なり

天れさうめ まゝさくらや  
事なり 天の岩戸用時

舟明神 天神の名  
天の岩戸用時

あひひらうひ 海  
麻の芥

あしけ われ  
事なり

あらし村 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり

あらし 夜  
事なり



わくら川 其中の流

あまねき 縄

われり わ

あや わ

あま さ

雨 催

あゆ 俗

あし 下

あま 小

あま わ

あま わ

あま わ

あま わ

あま わ

あま わ

あま わ

あま わ

あま わ



あきとくかきり かきり

あきとく花 花

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく

あきとく あきとく



わさし海國

日本はわさし海國  
日又は海國曰お

わさし

わさし云枕詞に云

わのあえ衣

わのあえ衣  
衣の秋の肉を

よえら衣

秋の衣

秋の衣の事

あさかみの姫

七ツカ

わの戸男

業平の事

わやとと

わやとりの名

わさこの部

部名

わくた川

是は海國の名

わ

あはれと云わ

あはれなり

あはれなり

あはれ吹風の事

あはれわがうれし哉

あてき

あてきなる事

あさう坊

あさう坊の事

あまらうり

星の事

あひかたのめ

あひかたのめ

あ

あしと山

筑波山の事



わすれの海に海をこぼし  
糸よわひぬしを

あすけたる 西のそと

あまよそき ちの夜の手

あさきよい 糸の八雲

あそき 糸のよみ

泣だれて 糸のわらわ

あんとり 明平の夜

あやめ くらあ

あつこい海 くらあ

あつこい海 くらあ

天のとり舟 くらあ

あつこい海 くらあ

あつこい海 くらあ

あつこい海 くらあ

あつこい海 くらあ

あつこい海 くらあ

あつこい海 くらあ

あつこい海 くらあ

五

五



事と云

あけみ紀うふ 申果し

あゝ人神 天祚すのれ

あせび あせかといふ事なるの

あゆみ あゆみと云ふ事なり

あこぎ 伊勢の浦より名

あけみおりのたひさるれあ

あとう紀山 あとう時かり

天れ村合田 天照大神乃

目おも不換田 私願

わかれ 遊離

わ 日とけくろく枕汗

わ あけみおりのたひ

わ あけみおりのたひ

わ あけみおりのたひ

わ あけみおりのたひ

わ あけみおりのたひ

わ あけみおりのたひ

わ あけみおりのたひ

わ あけみおりのたひ



わひきき わらじ事

秋乃交 后の西

わらじひく 赤子又明

より又赤袴のすまこ

わらじこつめ 赤子あ山

わらじあれ親 落の親

わらじあじ草 赤子

したる田と押草とと云

わけあそ 佛部と地を高

と云なま入のわらじと云

わらじをかき 赤子

わらじさうひ 六徳の事

天河井せま山 伊賀の

夕よせて心 名所

わらじ流を 和歌の事

近杖集第三之終



